

# 三鷹市立大沢台小学校 令和5年度【体育】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びの行い方を知ること、工夫をしたり、協力して楽しんだりすることができた。</li> <li>振り返りカードに記入していくことで、自分の動きを客観的に捉えられるようになったり、友達の動きに気付けるようになった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心や経験による差が大きい。</li> <li>ゲーム遊びでは、自分が活躍することに夢中になり、チームワークを意識することが難しかった。</li> </ul>	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな形状の線上等真っ直ぐに走ったり、蛇行して走ったりすることができる。</li> <li>きまりを守ったり、場や器械・器具を安全に気を付けながら行うことができる。</li> <li>簡単な遊び方を工夫することや考えたことを友達に伝えることができていない。</li> <li>マットを使った運動遊びでは、手で支えての体の保持や回転については、個人差が見られる。</li> <li>友達の良いところを見付ける視点や伝え方に個人差が見られる。</li> </ul>	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達への伝え方の基本パターンを常時視覚的に分かるようにする。</li> <li>手で支えての支持は、体づくりの運動遊びや日常生活において意識して行うようにする。</li> </ul> <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末等を使用して、工夫した動きや遊びなどが伝えられるように、言葉集め集などを児童が見られるようにする。</li> <li>授業のまとめで友達の良いところを発表する時間を設けたり、学習カードを利用して、友達の良い動きを互いに積極的に見付けられるようにする。</li> <li>運動に合わせた体の使い方や動きを常に意識して行うよう取り組んでいく。</li> </ul>
第2学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末を活用して場や動き方を提示したり、自分の動きを見返したりすることで基本的な動きや技能を身に付けることができてきた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験から運動技能に個人差がある。</li> <li>学習用タブレット端末と学習シートとの活用バランスが難しかった。</li> </ul>	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動遊びを楽しんで行うことができた。運動経験の差から、用具を操作する運動遊びや固定施設を使った運動遊びでは、個人の能力の差がある。</li> <li>形態、遊び方を工夫しながら、自分が気付いた動きのポイントやゲームでの作戦を伝え合ったりする活動ができたが、よい動きを言語化したり、友達にアドバイスしたりできる児童は少ない。</li> </ul>	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種の運動遊びの行い方を理解し、基本的な動きや技能を身に付けるための提示方法や手立てが十分ではなかった。</li> <li>自分の思いをペアやグループで共有する時間はあったが、発言する児童に偏りがあった。</li> <li>運動遊びを通して、体を動かすことや友達と関わり合うことの楽しさを感じられるような指導を更に行う必要がある。</li> </ul> <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末等を使って、基本（手本）となる動きを動画で見せたり、自分の動きを見返したりしながら、動きのポイントが分かるようにする。</li> <li>学習カードで、よい振り返りをして児童を取り上げ、全体で共有する時間をつくり、どの児童も学習にすずんで取り組めるようにする。</li> <li>単元計画の見直しや自己の目標を明確にできるように学習カードを工夫したり、運動のポイントを出し合ったり、手本を見合う時間を毎時間確保したりすることで、必要な動きの定着を図る。</li> </ul>
第3学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体づくり運動では、多様な運動に取り組んだり、様々な学習用具を使ったたりする中で、友だちと積極的に関わろうとする姿が見られた。</li> <li>走・跳の運動では、学習カードを使用してあてを意図させることを通して、主体的に授業に取り組む姿が見られた。</li> <li>ゲーム領域では、チームで話し合う時間を設けることで、練習方法や作戦、振り返りを行うことができ、意図的に取り組む姿が見られた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験や興味・関心から、運動技能に個人差がある。</li> <li>自分の課題を見付けられない児童への手立てを考える必要がある。</li> </ul>	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達と時に話し合ったり、アドバイスを合ったりと積極的に関わろうとする姿勢が見られる。</li> <li>チームで練習メニューを話し合ったり、振り返りを行ったりすることが主体的な態度につながっている。</li> <li>走・跳の運動や浮く運動・泳ぐ運動等の克服型の個人技能が求められる運動では、技能に大きな差がある。</li> <li>あまり外での遊びや活動が思う存分できない状況が続いたためか、体力や巧緻性・俊敏性の低下が感じられる。</li> <li>めあてのたて方の理解が徐々に広がってきているが、自分にとってふさわしいめあてやまだめあてそのものの意味を理解できていない児童もいる。</li> </ul>	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各運動で意識すべきポイントが理解できていない児童がいる。めあてとなるポイントを焦点化して分かりやすく提示し、みんながめあてを意識できるようにする必要がある。</li> <li>自分の課題、めあてを把握させられていない。</li> <li>友達同士やチームでの話し合いに時間がかりすぎてしまっている。話すべき内容を明確化する指導・助言が求められる。</li> </ul> <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意識すべき各運動のポイントを学習カードや掲示物を使い、いつでも意識できるようにする。</li> <li>チームやトリオの形態で授業する際には、個人の学習課題に適した形のメンバー編成となるよう、よく考えてメンバーを組む。</li> <li>学習用タブレット端末等を使って動きのポイントを提示したり、動画を利用したりして課題やめあてを意識させるようにする。</li> <li>児童同士で体の動きを視察し、アドバイスをし合う場面を設ける。対話的に学び合う場面を設けることで、自己を客観視させ、課題を把握できるようにする。</li> </ul>
第4学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マット運動や跳び箱運動では、トリオ学習の形態に学習用タブレットを活用した結果、自分の課題が分かったり、その課題に沿った場の選択を考えたりすることができた。</li> <li>ゲーム領域では、チームで話し合う時間を設けることで、練習方法や作戦、振り返りを行うことができ、主体的に授業に取り組む姿が見られた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験や興味・関心から、運動技能に個人差がある。</li> <li>自分の課題を見付けられない児童への手立てを考える必要がある。</li> </ul>	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームで作戦を考えたり、声をかけ合ったりしながら、協力して活動することができている。</li> <li>準備や片付けをすずんで行うことができる児童が多い。</li> <li>勝敗にこだわりすぎてしまい、雰囲気悪くしてしまう児童が1割いる。</li> <li>児童同士で、お互いに課題となるポイントを伝え合うことができていない。</li> </ul>	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームや学習する単元では、ルールを全体に定着させることに時間がかかっていた。</li> <li>学習の振り返りを「自身の課題から何を考え、結果どうなったのか」といった深い思考ができていない。</li> <li>児童一人ひとり運動のポイントを理解することに課題がある。</li> </ul> <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末を活用し、事前にルールが分かるようにする。</li> <li>個人の学習課題に適した形で、トリオを作成し、互いのポイントを伝え合える学習環境を整える。</li> <li>学習用タブレット端末を用いて、児童が互いに自分の動きを確認し合えるようにしたり、お手本となる動画を保存していつでも確認できるような状況にしたりする。</li> <li>学習の振り返りの形式を見直す。</li> <li>学習の仕方を知ることができるよう、できる限り、同じ流れで学習を進めることができるようにする。</li> </ul>
第5学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>器械運動や跳び箱運動では、様々な活動の場を通して、自己実現できる環境を整えることで、自らすすんで課題に取り組むことができた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームで協力して取り組む姿が見られるが、チームの現状を考え、作戦を練るまでは至っていない。</li> <li>自己の課題を見付け、そこから改善できる策を考えられていない。</li> </ul>	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元毎に評価の視点を示し、目標を個人で設定し、それに向けての課題解決に取り組んでいる。</li> <li>運動を見るポイントが分からなかったり、見てはいるものの声かけができなかったりする児童の姿が見られた。</li> <li>友達とすすんで活動に取り組む一方で、自分の動きを確認して、改善に取り組む姿があまり見られなかった。</li> <li>学習用タブレット端末にお手本の動画を保存していたが、活用されなかった。ICT機器を活用するよさを味わっていない。</li> </ul>	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動あつて学びなしとなっていることが多く、児童に課題意識をもたせて学習に取り組むことができなかった。</li> <li>明確な視点をもたせた振り返りを行うことができていない。</li> </ul> <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の初めに、児童に何ができるようになりたいか、目標をもたせるようにする。それに向けて毎時間の目標を考えさせるようにする。</li> <li>友達の良さを認め合えるよう、お互いに楽しくゲームができるような言葉かけを考えさせたり、振り返りでよかった友達を見付けさせたりする。</li> <li>学習用タブレット端末をうまく活用している児童を取り上げて、紹介をしたり、必要感をもたせたりすることで、学習用タブレット端末を活用するよさを味わわせる。</li> </ul>
第6学年	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己調整学習を取り入れて、自ら課題を発見し、課題解決に向けて取り組めるような授業づくりができ、主体的に授業に取り組む児童が増えた。</li> <li>学習用タブレット端末の活用し、個別最適な学びと協働的な学びにつなげることができた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学び方の積み重ねがなかったため、自ら課題を発見することに時間がかった。低学年から、系統的に指導する必要がある。</li> </ul>	<p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えや取組を認め合うことができるようになってきた。</li> <li>自分に合っていない学習課題を設定している児童がいる。</li> <li>学習用タブレット端末を活用することで、児童同士のコミュニケーションの時間を確保することができている。</li> <li>基礎、基本の動きに差があり、学び合いのときに一方が教えるだけとなってしまっている。</li> </ul>	<p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解力や運動技能に差があるため、基礎・基本や動きのポイントを共有していく必要がある。</li> <li>自己の課題を見付けるための視点を明確に提示する必要がある。</li> </ul> <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動きのポイントを教えるのではなく、児童自ら課題を見付け解決していくことができる授業をしていく。</li> <li>学習用タブレット端末等を活用して、動きのポイントと自己や友達の動きを照らし合わせ、課題を見付け解決していくようにする。</li> <li>個人の記録やチームでの記録を計測し、成長を実感させることで、主体性をもって授業に臨ませるようにする。</li> </ul>